

つなげる

岐阜市立厚見中学校 3年
吹原 千明(ふきはら ちあき)

ロシアのウクライナへの侵攻のニュースがテレビで報道されるようになって、1年が過ぎました。テレビのニュースでは、破壊された街の様子や銃をもった兵士の姿が、毎日のように報道されています。爆発の音に震える子どもを抱きしめる母親の姿を見て、私も怖く、悲しい思いになります。胸の中に不安がふくらんでいきます。

その緊張は世界にも広がり、2022年の世界の軍事費用は過去最高の2兆2398億ドル、日本円にすると、およそ300兆円となったそうです。300兆円…。これは、本当に必要なお金だったのでしょうか…？

私は修学旅行で広島原爆資料館を訪れました。原爆資料館の資料によると、世界には今も1万3000発以上の核爆弾が存在しているそうです。過去の戦争で原子爆弾を使用してしまった結果は、とても悲惨なものでした。ヒロシマで約14万人、ナガサキで約7万4000人も命を奪ったと言われています。原子爆弾で亡くなった人だけでも20万人以上。その遺族も、大切な人を失いどんなに悲しい思いをしたか…。命が助かって怪我や後遺症に苦しむ人やその家族も…。戦争はいつだって、どれだけの悲しみを生み出すのでしょうか。

広島では被爆体験者の切明さんのお話を伺う機会がありました。切明さんは、講話の中で「生き残ってしまった辛さがある。」とおっしゃいました。その言葉は私の心に深く刺さり、戦争の悲惨さが痛いほど伝わりました。

それなのに世界では今も戦争や紛争がなくなることはありません。いまだに莫大な予算をかけて兵器を開発・維持しています。しかし、兵器を保持して周りの国を威嚇することが、平和と呼べるのでしょうか。それが国と国とのつながりなのでしょうか。

私も人と人とのつながりについて、考えさせられたことがあります。私は中学校で生徒会執行部として活動していました。その中で一番心に残っている出来事が、私が中心で計画・実行した「全校レクリエーション・逃走中」です。先生たちに交渉して掃除をカットしてもらい、さらに午前中の授業を短縮授業にしてもらって「全校レクリエーション」の時間として、いつもより長い昼休みを確保しました。みんなが楽しめるように様々なミッションやイベントを工夫しました。特になぞなぞを書いた紙を運動場に隠し、それを見つけ出す宝さがしミッションには力を入れました。紙を見つけた人と、その周りの人がなぞなぞの答えを相談することで今まで話したことのない人とのつながりを生み出すことができました。いろいろな準備があったけれど、たくさんの方が協力してくれたから楽しくできました。当日、みんながとても楽しそうに参加してくれる姿を見て、私もうれしくなりました。人と人とのつながりって、こんなに温かいんだ。忘れられない思い出になりました。

この温かさが世界にも広がってほしいなと思います。

今なお世界では、ロシアとウクライナに限らずどこかで争いが起きています。それらを止めるためにはお互いが理解し合い、武器を取る前に話し合う必要があります。

しかし、それができていないからこの世は争いであふれているのです。戦争が明日や明後日、ぱったりと止むことはないでしょう。十年後ですらきつと…。でも、戦争がなくなることを諦めてはいけません。諦めたら、そこで終わってしまうのです。「戦争をなくしたい。」という気持ちが途切れてしまうのです。

私はこの先、何年何十年と生きるでしょう。私が生きている間に、戦争をなくすことはできるのでしょうか。答えはまだ分かりません。でも、「戦争をなくしたい。」という気持ちを周りの人に「つなげて」いけば、いつか終わると信じています。

私たちに苦しい思い出を語ってくださった切明さんの思いは、私たちが次の世代につなげていきます。